



手足口病ってどんな病気？



～手足口病とは～

手足口病は、乳幼児、小児によく見られる夏風邪です。5～8月ぐらいに流行し、潜伏期間は3～7日ぐらいです。手のひら、足の裏、口の中のブツブツと水疱を特徴とします。一般的には、発熱で始まる軽い病気です。ほとんどの人が、1週間から10日程度で自然に治ります。



★ 原因

原因はいくつかのウイルスです。最も一般的なものはコクサッキーウイルスA16ですが、この他のエンテロウイルス71なども原因となります。複数のウイルスが原因なので、何度もかかることがあります。

★ 症状

手、足、口の中の粘膜などに2～3mmの水疱性のブツブツが現われます。発熱は約1/3に見られますが、38℃以下の場合が多いとされています。ブツブツは、3～7日で消退します。まれに髄膜炎になることがあるので、**頭痛・吐き気・けいれん・高熱**などの症状があったら、できるだけ早くかかりつけのお医者さんに相談してください。

★ 治療

発熱、頭痛、口の中のキズの痛みなどそれぞれの症状に対する対症療法が中心です。何よりも水分不足にならないようにお茶、スポーツドリンクなどで十分な水分と体力が落ちないように栄養補給をしましょう。

★ 感染経路

感染者したこどもの咳からウイルスが放出され、健康な子が吸い込むことにより感染します。また、鼻水や便から出たウイルスが手について、口を触れたり、その手で触れた食物を口にすることで人から人に感染します。

★ 予防・登校

手足口病には、有効なワクチンがありません。予防のためには**手洗い・うがい**が大切です。

感染しても、幼稚園や学校を休む必要はありませんが、登園・登校の判断については、患者さん本人の体調やかかりつけのお医者さんと相談しましょう。



手足口病の仲間の病気：ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナもウイルスが原因の夏風邪の一つです。38～40度の高熱が2～3日続きます。また、のどの奥に小さな水ぶくれができます。これがすごく痛いので、飲んだり、食べたりができなくなることもあります。



詳しい情報を知りたい方は国立感染症研究所のページをご覧ください。

<http://idsc.nih.gov.jp/disease/hfmd/index.html>

お問い合わせ

文京保健所 予防対策課 TEL 03(5803)1834

